究極の芋煮を求めて

８月24日、ＴＵＹ特別番組「彦麻呂が挑戦！究極のＩＭＯＮＩ」（９月12日放送）の撮影のため、タレントの彦麻呂さん、ＴＵＹアナウンサーの渡部有さんが中山町を訪れました。

お二人は、「究極の芋煮」を探し県内各所を訪問。その旅の中で、芋煮のルーツを探るため、芋煮会発祥の地である中山町を訪れました。

撮影には食生活改善推進協議会（小関日出子会長）の皆さんが参加し、芋煮の元祖とされる棒だらを使った「芋棒煮」復元にまつわるエピソードを紹介しました。お二人とも芋棒煮を食べるのは初めてということでしたが、「だしがきいていておいしい」と大変好評でした。

渡部アナウンサー

棒だらの入っている芋煮は初めて食べました。
魚を使っているのに生臭くなく、棒だらと干ししいたけのだしがしっかりときいていて上品な味ですね。
「芋棒煮」は牛肉を使った芋煮とはまた違った味わいで、とってもおいしかったです。

この夏の頑張りを披露
なかやま保育園プール参観

８月８日、なかやま保育園でプール参観が行われました。

園児たちは、見にきてくれた保護者に顔を水につけられるようになったところやプールに潜れるようになったところを見てもらおうと気合十分。保護者は、子どもたちの成長に嬉しそうに目を細めていました。

夏休みの恒例
町内各所でラジオ体操

７月下旬から８月中旬にかけて、町内各所で夏休み恒例のラジオ体操が行われました。

早朝の集合とあって眠そうな子どもたちでしたが、体操が終わる頃にはすっかり目が覚めた様子。「早く朝ご飯食べたい！」と元気に帰っていきました。

豊田小学校グラウンド

ゆかたを身につけお香を楽しむ

８月26日、勤労文化センターでお香を楽しむ会主催の「ゆかたでお香」が開催されました。このイベントは、日本に古くから伝わる伝統文化であるお香について多くの子どもたちに知ってもらおうというものです。

夏らしく色とりどりのゆかたを身にまとった子どもたちによるファッションショーや、お香の香りあてクイズ、組紐（くみひも）つくり体験、抹茶コーナーなど様々なコーナーが設けられ、訪れた人は思い思いに会場をまわって楽しんでいました。

お香と中山町

昔、京都で朝廷に仕える役人である公家（くげ）や上級武士のたしなみとしてお香が広がりました。お香は京都から日本海を船で渡り、酒田から最上川をさかのぼって中山町に伝えられたそうです。

江戸時代の中ごろ、柏倉九左エ門家では、当時贅沢な遊びだったお香を楽しんでいた記録が残っており、現在も当時の教本や香木、香道具が保管されています。

抹茶コーナーで出された茶菓子

第66話　郷蔵と窮民救済　　中山町 歴史散策

江戸初期には、諸藩にも軍事のための貯穀がありましたが、江戸中期になると、凶作・飢饉に備える郷蔵（ごうぐら）が幕府や藩の対策として多くの村々につくられるようになりました。

長崎村には、郷蔵が３軒あったことが寛保３年（１７４３）の柏倉文蔵家文書の「村差出大概ひかえ」に記載されています。

郷蔵の敷地は旧楯跡の一反歩で、設置された時期は明らかではありませんが、享保年間と考えられます。文書によると、年貢の上納を農民が完納できない場合、村方としてそれを果たすためであったとされ、郷蔵には蔵守として定番一人（給米５俵）を置き、村方から昼夜にわたり加番を出すことも定められています。

金沢村の郷蔵は、記録によれば、郷蔵番人の給米は１石４斗８升とし、これは村方百姓の負担となっています。

岡村では、延享３年（１７４６）に「郷蔵無尽」をはじめていますが、これは年貢不納となった場合、郷蔵より借米し年賦で返済する制度でした。

18世紀後半に襲った宝暦５年（１７５５）と天明３年（１７８３）の二大凶作は、江戸期の中でも最大のもので、村山地方の農村にも甚大な被害を与え、農村のその後のあり方にも大きく影響を及ぼしていますが、その中の一つが農村復興対策としての郷蔵の新しい運営であり、豪農の発展と役割であったと言えます。幕府領柴橋代官役所では、天明８年（１７８８）から３年間、最上川下げ米（廻米）うち20分の１を貯穀する方策が実施されていますが、当時の代官所管理下の村は67ヶ村で、その貯穀が柴橋村の郷蔵に預けられています。

【用語の説明】
郷蔵（ごうぐら）：近世日本の村に設けられた公的な倉庫のこと

※参考　中山町史　中巻
第７章第３節　幕藩社会と豪農

東南村山支部消防操法大会

８月26日、県消防協会東南村山支部消防操法大会が最上川中山緑地で行われ、中山町のほか山形市、上山市、天童市、山辺町の３市２町の消防団が、小型ポンプ操法とポンプ車操法の２部門で日ごろの訓練の成果を競いました。中山町消防団からは、第５分団第１部と第３分団第１部が出場。

それぞれ、大きな掛け声で一つ一つの動作を確認しながら迅速で規律ある動きを見せていました。

中山町消防団の結果は次のとおりです。

■小型ポンプ操法の部　優　勝　第５分団第１部（柳沢）
■ポンプ車操法の部　第３位　第３分団第１部（旭町、柳町、川端、下川ほか）

寄附ありがとうございます

◆兵庫県神戸市の森本浩史（ひろし）さんよりふるさと納税として１万円を寄附していただきました。

◆中山町役場、最上川中部水道企業団、山形建設労働組合、三和缶詰から組織される中山町勤労者協議会から、東日本大震災に係る義援金として、日本赤十字社に３万円を寄附していただきました。